

会 議 録

会議名 (審議会等名)	相模原市美術館基本構想検討委員会(第2回)		
事務局 (担当課)	文化振興課 電話042-769-8202 (直通)		
開催日時	平成24年8月14日(火) 14時00分～16時00分		
開催場所	相模原市民ギャラリー 会議室		
出席者	委員	14人(別紙のとおり)	
	その他	0人	
	事務局	5人(市民部長、文化振興課長、他3人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市民部長あいさつ 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) これまでの審議内容のまとめ (2) その他 4 その他 5 閉会 		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局の発言)

1 開 会

2 市民部長あいさつ

3 議 題

(1) これまでの審議内容のまとめ

○資料「これまでの審議内容のまとめ(案)」について、事務局から説明願いたい。
(資料について、事務局から説明)

○まとめ案の基本理念で、美術館が柱を「まちづくり」、「人づくり」、「ものづくり」としてまとめているが、どのような趣旨か。

●これまでの委員の意見の中で、地域やコミュニティの活性化を「まちづくり」、教育普及や人材育成を「人づくり」、作品制作や企業連携による商品づくりを「ものづくり」としてまとめたものである。

○基本理念に「ものづくり」を入れたことについては、デザインを含めた美術館の取組みを外部にアピールできるので評価する。

○基本理念として、単純すぎる。美術館で行う他の事業についても「基本理念」に盛り込むべき。

○基本理念には多くの盛り込むのではなく、外部にアピールすべきものに絞るべきだ。

●現段階でのまとめであるので、今後議論を進めながらより精査する。

○収蔵について、事務局の案は消極的だ。美術館の展示は収蔵が支えている。評価の定まった名品を買うのは困難であるが、特色ある収蔵は積極的に進めるべきだ。全ての美術品を借りて展覧会を実施するのでは、輸送費や保険等のコストが高額になる。資金力の無い美術館では、収蔵品を活用すべき。

○良い収蔵を行うことは館の信用にもなる。信用があれば、展覧会のために、公立を含む著名な館から美術品を借りることもできる。良い収蔵のある美術館であれば、作家や収集家から寄附や寄託の申し出が多いので、さらに良い収集が期待できる。

○若手作家の作品は、高額ではない。先見性のある収集を行い、収蔵品が充実すれば、魅力のある展覧会が実施できる。

○現在の収蔵品は、写真が圧倒的に多い。写真を収集の核とすることも考えられる。

○美術品について、現在の市の収集はあまりに少ない。市ゆかり作家の作品も集め切れていない。

○横浜美術館では、基本的な維持管理は指定管理費でまかなっているが、展覧会は独立採算で、集客の見込める展覧会によって、他の展覧会の赤字を埋めている。

○まとめ案に「美術館の一部に市民ギャラリー的機能を持たせる」とあるが、美術館整備後は、相模原市民ギャラリーを閉館するのか。

●美術館の一部に市民ギャラリー的機能を持たせるという委員の意見を集約したものであり、相模原市民ギャラリーの存続について言及したものではない。

○これまでの審議内容をまとめた資料を見ると、「調査・研究機能」について全く触れられていなかった。

○収集方針が決まらなると、調査研究の方針も定まらない。

○これまで発言の少なかった部分であるので、今後議論を深めればよい。

○前回の委員会のあと、数名の委員が集まり、美術館の基本案について話し合いを行った。このとき話し合った内容についてご説明したい。

《基本案についての説明》

- 「基本理念」については、相模原市の美術館は「相模原の未来へ向けた創造文化の中心」と考えた。また、事務局まとめ案のとおり「まちづくり、ひとづくり、ものづくり」を盛り込む。
- 「施設の性格」として、5つ程度の軸を中心に具体的に活動内容をまとめる。自然と生きる美術館、未来を生きる子供たちのための美術館といった視点が必要。
- 中層程度の建物を想定し、現代美術や写真の展示、まちづくりや教育普及など、事業の性格ごとにゾーンに分け、企画展や常設展、ワークショップなど、さまざまな事業を行う。
- 展示については、施設内にスタジオやシアターを設置するなど、ジャンルを問わない生き活きとした展示を行う。
- アーカイブ美術品や図書などの美術資料は地下階に収蔵する。
- 館内に、従来の市民ギャラリー機能を発展継承するギャラリーの設置を検討する。
- 館外活動のために、バスの配置を検討する。

○基本案では、収蔵庫や作業場などのバックヤードが明らかに不足している。

○面積の配分や導線等の施設の詳細については、基本計画で行えばよい。

○以前に他の委員から提案のあったプロジェクトベースの事業運営については、アートラボはしもとで試験的に取り組んでいる。検証が進めば、案に具体的に盛り込むことができる。

○アート活動が盛んな藤野地域で、越後妻有のような大規模な野外展示や、アーティストインレジデンスとして招待作家による公開制作や公演会などを開催すれば、美術館の活動を広くアピールでき、まちの活性化を促すことが可能だ。

○全国公募コンクールを実施するなど、美術館が若手作家を支援すれば、若手作家

が定着し、アートのまちづくりに有効である。

- 館外活動のために館にバスを配置するとしているが、維持費がかかりすぎる。
- バスの配置については一つの考え方であり、経費にかかる検証は必要だが、バスは委託するなどの手法を検討すればよい。案の基本的な考え方については、美術館に関心を引き起こすことができるものであり、高く評価すべきだ。
- 本格的な展示を見せるのであれば、子供たちに美術館に来てもらうほうが良い。バスで学校に児童を迎えに行くなど、美術館に来てもらう環境づくりが必要。
- 美術館に来た児童に、何を教えるのかが問題だ。美術館と学校は、連携して教育プログラムについて研究すべきだ。
- 学校教育との連携を考えれば、鑑賞教育を専門とする職員が必要だ。
- 美術教育について、連携する施設が市内に多数存在しても良い。
- 館外活動を重視する美術館ならば「ものづくり」は重要だ。
- 基本理念について、事務局のまとめでは「まちづくり、ひとづくり、ものづくり」にしか触れていないが、基本案では、「文化創造」に触れており、より高い視点である。
- 「まち」や「人」、「文化」という文言は、平成21年度の「相模原市の美術館にかかる提言書」にも共通する。
- 基本案では、自然や未来というテーマも掲げられている。市内にあるJAXAや理科系の大学と協力し、生命・宇宙といった事業にも展開が可能だ。
- 現在の動向では、アートと科学は密接な関連にあり、アートなのか科学なのか分けること自体に意味がない。展示については、アートを含むより幅の広い分野を対象とすることも検討すべきだ。

第2回相模原市美術館基本構想検討委員会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	いしわた なお 石渡 尚	横須賀市自然・人文博物館	学芸担当課長	出席
2	いとう としはる 伊藤 俊治	東京藝術大学	教 授	出席
3	いなぎ よしかず 稲木 吉一	女子美術大学	教 授	出席
4	うちやま じゅんこ 内山 淳子	横浜美術館	主任学芸員	出席
5	おさない せいげん 小山内 清弦	文化協会	会長	出席
6	かねこ のりよし 金子 典由	公募委員		出席
7	かみじょう ようこ 上 條 陽子	相模原芸術家協会	会 長	出席
8	きはら ゆうじ 木原 裕二	市立谷口台小学校	校 長	出席
9	こばやし まさこ 小林 正子	市立大野台中学校	校 長	出席
10	すずき まさひこ 鈴木 正彦	光と緑の美術館	館 長	出席
11	ふきた ちあき 吹田 千明	藤野ぐるっと陶器市・篠原の里		欠席
12	もたい としや 母袋 俊也	東京造形大学	教 授	出席
13	もりわき ひろゆき 森脇 裕之	多摩美術大学	准教授	出席
14	やまもと みたす 山本 満	(株)さがみはら産業創造センター	専務取締役	出席
15	よしむら りょうこ 吉村 涼子	公募委員		出席